

第 8 2 回城山地区まちづくり会議全体会結果

日 時：令和 2 年 7 月 2 1 日（火）

午後 7 時～午後 9 時

会 場：城山総合事務所第 1 別館 2 階 B 会議室

出席者：1 7 名（欠席 5 名）

傍聴者：2 名

1 開 会 石井所長

2 代表あいさつ 大参代表

3 緑区長あいさつ 中島緑区長

4 議 題

（ 1 ）緑区基本計画策定の報告について

緑区役所区政策課の職員から緑区基本計画（概要版）について説明を受けた。
その後、緑区基本計画に関する質疑や中島緑区長との意見交換を行った。

主な質問及び回答（ 委員からの質問・意見、 緑区役所からの回答 ）

区基本計画を推進する実施計画は今後策定されるのか。

行財政構造改革プランの策定を現在進めており、その結果を踏まえ、来年度からの実施計画の検討をスタートする予定となっている。

区基本計画では、現在のコロナ禍による影響が加味されていないと思うが、今後実施計画を策定する際には、コロナ禍による影響も反映していくのか。コロナ禍により経済・社会情勢が変化している。その中で緑区、特に城山地区、津久井地区については、プラスの方向に進んでいると感じている。テレワーク、在宅勤務も進んでおり、それが後押しとなり、移住に対する希望が増加傾向にある。コロナが収束してもテレワークを続けていきたいという希望もあるため、そういった状況を活用し移住・定住者を確保し地域振興に繋げていきたい。その際は地域の意見を聴きながら行っていきたい。人が集まらなくても経済が回るようにしていくことが大切と考えている。

人口減少が顕著であり、市は今後コンパクトシティを目指していくのか。どの辺に人が増えていけばいいというような構想はあるのか。緑区でも藤野・城山と地域によって環境が異なる。テレワーク・在宅勤務でも週 1・2 回は会社に行かなければならない。移動手段が大切になってくる。移動手段の確

保として民間の駐車場を週1・2回確保し補助するような通勤に対するフォローをしていただきたい。

在宅勤務をしているのは、ある程度の規模の企業でそれなりに所得もある、所得層や勤務地がどこか等のスポットを定めて考えていくことも必要と考える。中山間地域の取組は、移住・定住促進も大きな柱として考えている。どのエリアで行っていくかも課題としてあり、皆さんの意見を伺いながら行っていくことが重要と考える。

相模原市は、京王線、横浜線、相模線、小田急線などがあり、そして今後リニアも入ってくる。相模原市は鉄道の街といえる。これらを活用して、働くこと、食べること、楽しむこと、地産地消のまちづくりを考えてもらいたい。何か一つうまくいけば、バスが入ってきたり、人が集まったりとする。具体的な動きをしていただきたい。

公共交通の問題は大きな課題である。ただし、その前提として、住む人・来る人が魅力を感じるような魅力づくりが必要である。地域の取組も大切に共に1つずつやっていくことが必要と考える。

(2) 第6期相模原市緑区区民会議委員について

事務局から区民会議の概要説明を受けた後、協議した結果、次のとおり推薦することとした。

第6期相模原市緑区区民会議委員 代表 大参 正人

(3) 令和2年度地域活性化事業交付金申請事業に対する意見について

申請者から事業概要の説明を受け、質疑応答の後、当該事業に対するまちづくり会議としての意見を取りまとめた。

(○委員の意見・質問、 申請者の回答)

事業名：しろやま おせっかい

団体名：城山地区まちづくり会議高齢者ととともに築き支える地域づくり部会
主な意見・質問、回答

掲出期間のないポスターと考えられるが、長期間掲示できるポスターなのか。

パウチをするか、防水加工のポスターを作成する予定である。

各戸に配布しても各家庭で保存してくれない。城山地区は、こういう地区と印象付けるためのぼり旗を立てたらどうか。また、各家庭等で目に付くような工夫が必要ではないか。

のぼり旗については、今後検討していきたい。そして、チラシの各戸配布

については、各家庭で保存してもらえそうな工夫をしたチラシを作っていきたい。

まちづくり会議としての意見

- ・チラシについては、各家庭で目に付き、保存してもらえそうな工夫をしてください。

(4) 令和2年度城山地区まちづくりを考える懇談会のテーマについて

事務局から資料3に基づき、各委員に対して実施した令和2年度まちづくりを考える懇談会実施に関するアンケート結果についての説明がされた。そのアンケート結果をもとにテーマについての検討を行った。

主な意見

- ・いま最も関心があるのは、緑区基本計画に記載のあるとおり地域コミュニティを維持するための地域活動の担い手不足。コミュニティを支える人をどう育てるかというテーマでもよいのではないか。
- ・相模原市は全国平均より特殊出生率が低く、他市と比較するとより人が少なくなる中、コミュニティを維持するとなると人が必要。相模原市の特殊出生率の低いことに対するアプローチ、子どもを安全に生み、育てるまちづくり・市としての戦略について懇談したい。
- ・若い世代は、地域に就労の場もなく地域を出て行ってしまっていて、帰ってこない。城山・緑区が住みよい街・住みたい街にしていくための懇談をしたい。
- ・人が減り、行政機能も減っていく中で、民間・住民が協力してやっていく必要がある。そして、魅力ある街・選ばれる街づくりが必要である。城山は首都圏にも近く、インフラも整っているため、通勤手段を良くし、情報発信をすれば、住むところとしてはよいところ。そういったところをアピールすればよいのではないか。
- ・小倉・葉山島は特に子どもが少なくなっている。親としてはそういった子供が少ない地域で育つことで劣等感が生まれるのではないかと危惧してしまう。そのため、子どもがある年齢まで行くと出て行ってしまい、戻ってくることもない。こういったことは、調整区域等様々なことが影響している。逆に広田や町屋などは住宅が建ち人口が増えている。このままでよいのかコミュニティの維持が危惧される。
- ・城山地区は住みよい街であるが、魅力がない。住みよい街から魅力ある街にするにはどうしたらよいか、みんなで知恵を出し合えるような懇談会が良いと考える。

- ・調整区域で住宅が増えず子どもも増えない。育成会もなくなり、高齢化も進んでいる。住宅が建たないため、駐車場利用が増えている。地域活性化は、地域が経済的に潤うだけでなく、住みよい街づくりも活性化と考える。地域に住宅が建たないと現在の状態を維持できないと感じている。
- ・子どもたちが10年後20年後に自分たちの地域を愛せるような子どもになってほしい、また、そういった地域になってほしい。そのことが、まちづくり・地域活性につながる。子どもたちの考えを受けて、大人たちの考えも変わっていく。
- ・長期的な展望については、区基本計画に盛り込まれており、実施計画を作る際に地域の考えを取り入れてもらえばよい。短期的な課題である高齢者対策、個人商店対策、買物弱者対策、防災などをテーマにしたらどうか。

(5) 城山地区で具現化していく取組について

前回に引き続き、各部会に分かれて取組内容の検討を行った。

【各部会からの検討経過の報告】

高齢者とともに築き支える地域づくり部会

- ・資料4 - 1 チラシ(案)をもとに内容の検討を行い、上がった意見をもとに修正を行い、次回引き続き検討をすることとなった。また、配布方法については、民生委員が行う全戸配布の際に配布できるよう調整をしていくこととなった。

子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

- ・今後の取組について、各部会委員の意見を聴いたところ、新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、人を集めた取組は実施が困難であるとの意見が多く、今後 NPO 法人等にコロナ禍における取組や他の方法で子どもたちの主体性を活かした取組ができないか相談をすることとなった。その結果を踏まえ、今後の取組について検討をしていくこととなった。

(6) その他

- ・次回のまちづくり会議は、令和2年9月15日(火)午後7時から城山総合事務所第1別館2階B会議室で開催することを確認した。

4 閉 会 八木副代表

以 上